

研究論文

## ブリティッシュ・コロンビア大学バンクーバー・キャンパス

### 教育系大学院学位プログラムの諸特徴

平田 淳\*

#### Some Characteristics of the Graduate Programs of the Faculty of Education at the Vancouver Campus of the University of British Columbia, Canada

Jun HIRATA

【要約】 UBC バンクーバー・キャンパス教育系大学院は、専攻別プログラムと研究科横断プログラムに分類される。前者には4専攻・27領域あり、研究者向け学位プログラムとしてM.A.が18とPh.D.が9、実践家向け学位プログラムとしてM.Ed.が25とEd.D.が1ある。後者には3専攻あり、M.A.が1、M.Ed.が2ある。そこでは専攻別に学位プログラムが分類されているのみならず、専攻内の領域ごとにも学位プログラムが設定されており、それぞれにおいて修めなくてはならないコースワークが異なっている。つまり、学位プログラムが極めて細分化されているという特色がある。但しこれは日本との対比における「特色」であって、カナダの大学院では珍しいことではない。

【キーワード】 UBC, バンクーバー・キャンパス, M.Ed., Ed.D.

#### はじめに

これまで本プロジェクトでは、まず2018年にオンタリオ州のブロック大学(Brock University)のM.Ed.プログラム調査を実施した。本プロジェクト・テーマ設定理由の一つは、日本の教職大学院との比較研究を行うことであり、その意味でまず教育実践家向け学位プログラムとしてはM.Ed.のみを有するブロック大学を対象とした。ブロック大学調査(平田, 2019a)(平田, 2019b)は、本プロジェクトの最初の現地調査として予備調査的意味合いも含んでおり、そこでの調査結果を基にしてその後本格的な調査を実施する予定にしていた。翌2019年には同州のトロント大学オンタリオ教育研究所(Ontario Institute for Studies in Education of the University of Toronto: OISE/UT)でインフォーマルな現地調査を行い、同校のM.Ed.とEd.D.プログラムに関する知見を得た。まずオンタリオ州の大学を調査対象としたのは、筆者がOISE/UTに留学していたため土地勘があったこと、これまでカナダ全州を対象に研究をしてきたが中心はオンタリオ州であったことに加えて、大学数がカナダ諸州の中で最も多いこと、M.Ed.あるいはEd.D.プログラムを有する大学数が英語圏諸州では一番多いことなどが理由として挙げられる。ここまでの研究で、その後の調査対象校をM.Ed.とEd.D.両方の学位プログラムを有する英語系大学に定めた。そして拙稿(平田, 2021a)で示したように、この基準に当てはまるのがオンタリオ州のOISE/UT、ウェスタン大学(Western University)、アルバータ州のアルバータ大学(University of Alberta)、カルガリー大学(University of Calgary)、ブリティッシュ・コロンビア(British Columbia: BC)州のブリティッシュ・コロンビア大学(University of British Columbia: UBC)の5つの大学であった。OISE/UTについては既に拙

稿（平田，2020a）（平田，2020b）においてまとめていたため，次に対象としたのが同じオンタリオ州にあるウェスタン大学であった。但し，2020年に入った時点で COVID-19 が世界中で猛威を振るい始め，現地調査の実施が不可能となったため，それ以降の調査は主にウェブサイトで得られる情報に限定してこれを収集・分析することによって実施した。ウェスタン大学 M.P.Ed. (Master of Professional Education, M.Ed.に相当) 及び Ed.D.プログラムに関しては，（平田，2021b）（平田，2021c）（平田，2022）で明らかにした。その後アルバータ大学については（平田，2023a）（平田，2023b）において，カルガリー大学については（平田，2023c）（平田，2024a）（平田，2024b）（平田，2024c）において，それぞれの M.Ed. 及び Ed.D.プログラムの特徴を抽出し，また両学位プログラムの比較考察を行った。また，それまでの研究で得られた知見から，大学間の比較を試みた。

本稿では，本プロジェクトが対象とする M.Ed. 及び Ed.D. 双方の学位プログラムを有する英語系大学としての 5 つの大学の最後の一つである UBC に焦点を当て，まずは教育系大学院学位プログラムの諸特徴を明らかにすることとし，本稿に続いて行う予定である M.Ed. や Ed.D. に関するより深い考察の序論としたいと思う。

## 1. UBC の概要

BC 州で最初に州立大学設立が検討されたのは 1890 年であった（Logan, 1958; MacKenzie, n.d.）。即ち，同年に「UBC に関する法律（An Act Respecting the University of British Columbia）が州議会において制定された。しかし，BC 州の州都であるビクトリア（Victoria）があるバンクーバー・アイランド（Vancouver Island）と本土（Mainland）の間で大学をどこに設置するかの論争が発生し（UBC Archives, 2022），その対立の中同法は廃止されてしまったため，大学設立に向けての種々の試みは頓挫した（Logan, 1958; MacKenzie, n.d.）。

その後，同州における高等教育推進は主にトロント大学とマギル大学（McGill University）によって主導されることとなった。まずトロント大学との連携により，一般教養と神学を教えるコロンビア・メソジスト・カレッジ（Columbian Methodist College）がウェストミンスターに設置されたのが 1892 年であったが，運営はすぐにトロント大学から同カレッジに委譲され，学生数はそれほど多くなかった（Logan, 1958; MacKenzie, n.d.）。その後 1899 年にバンクーバー高校（Vancouver High School）がマギル大学との連携によりバンクーバー・カレッジ（Vancouver College）を設立し（UBC Archives, 2022），その後ビクトリアでもマギル大学が同地の高校と連携するようになり，1906 年にはマギル大学がバンクーバー・カレッジを継承し，BC マギル・ユニバーシティ・カレッジ（McGill University College of British Columbia: MUCBC）が設立され（UBC Archives, 2022），マギル大学での学位取得につながるコースを提供するようになった（Logan, 1958; MacKenzie, n.d.）。しかし，MUCBC が提供するのは教養と理学における 2 年間のプログラムであり，学位を得るためには学生は他の大学に移る必要があった（UBC Archives, 2022）。

1907 年には「大学寄贈法（University Endowment Act）」が制定され，中央・北部 BC の国王所有地（Crown land）を 200 万エーカーを上限として売却し州立大学設立のための資金を得ることができるようになった。1908 年には新しい「大学法（University Act）」が制定され，UBC が設立されることとなった。同法は理事長（Chancellor），評議会（Convocation），学長（President），理事会（Board of Governors）を大学の運営，財務や商務の管理をするために設置し，また学術事項を取り扱うために学術評議会（Senate）を設置した。評議会は当初は BC 州に居住するイギリスあるいはカナダの大学卒業生すべてに加え，州議会により選ばれた 25 名のメンバーによって構成されていたが，最初の会合の後，第一期評議会のメンバーと学術評議会のメンバー及び UBC のすべての卒業生により構成されることになった。同法はまた，

UBCは宗派を問わず、また男女共学であることも規定していた(UBC Archives, 2022)。

1910年になると州規模での調査が実施され、UBCのキャンパスとしてポイント・グレイ(Point Grey)が選ばれた。州政府は国王所有地の175エーカーをポイント・グレイ自治体(Municipality Point Grey)の境界内に確保し、将来の大学の建設地とした。1912年には、1907年にメンバーが再編された後最初の評議会が開かれ、MUCBCの学長であったフランシス・カーター＝コットン(Francis Carter-Cotton)博士が初代理事長(Chancellor)に選出され(UBC Archives, 2022)、1913年にはフランク・フェアチャイルド・ウェスブルック(Frank Fairchild Westbrook)が政府によって学長に任命された(Logan, 1958; MacKenzie, n.d.)。1914年にはポイント・グレイで最初の校舎建築が始まったが、第一次世界大戦の勃発により翌年中止となり、土地の開墾と理学ビル(Science Building)の枠組みだけが完成した。1915年には、UBCはバンクーバー総合病院(Vancouver General Hospital)の隣のMUCBC跡地に臨時本部を開設した(「フェアビュー小屋(Fairview “shacks”)」とあだ名された)。この時点では一般教養、応用科学(Applied Science)、農学の3学部があり、同年9月の入学者数は379名、フルタイム及びパートタイムの教員数は34名であった。第一次世界大戦中であった当時はカリキュラムに軍事訓練が含まれており、同大戦終結までに697名の学生が出征し78名が戦死した。1919年になると多くの学生が復員し、1919-1920年の入学者数は890名にまで増加した。「フェアビュー小屋」はすぐに手狭となり、テントや教会、日曜学校を使って授業が行われていたが、ポイント・グレイの校舎建築は再開されなかった。同年にUBCは大英国内で初めて看護学の学位プログラムを提供し始めた。1920年になってUBCは初の授業料として年間40カナダドルを学生に課すこととなった。1922年になると、キャンパスの過密状態に不満を持った学生がポイント・グレイ・キャンパスを完成させるよう政府を説得するための州規模でのキャンペーンを組織し、56,000もの署名を集め、政府はポイント・グレイ・キャンパス建設再開のために150万ドルを予算化することとなった。このキャンペーンは大学の発展における最初の積極的な学生参加の始まりとされる。1923年には政府はポイント・グレイ校舎、即ち理学ビル(一部は今日の化学ビル)、図書館、発電所、9つの「半恒常的」校舎(一般教養、農学、応用科学、管理棟、講堂、4つの実験棟であり、その多くは現在でも使用されている)を完成させる契約を結んだが、1925年には政府とポイント・グレイ自治体との間で道路や下水道、その他のUBCキャンパスやユニバーシティ・ヒル住居エリア、大学が寄贈を受けた土地等のためのインフラ整備の資金の支払いについて論争が発生し、州政府はそれらの土地を自治体の管轄から取り除き、その後それらの土地は州政府によって直接管理されることとなった。そしてようやく、同年にUBCポイント・グレイ・キャンパスが開設された。これが、現在のUBCバンクーバー・キャンパスの始まりである(UBC Archives, 2022)。

その後1962年に第4代学長に就任したジョン・B・マクドナルド(John B. McDonald)は翌1963年にいわゆる「マクドナルド・レポート(McDonald Report)」を出し、BC州における高等教育の将来について勧告した。これを受けて、1965年にオカナガン・カレッジ(Okanagan College)がケローナ(Kelowna)に最初のキャンパスを開設し、1968年には大学への編入コース(transfer courses)を始めたが、1970年にはUBCへの入学者数は20,936名にまで拡大した。その後オカナガン・カレッジは1995年に「オカナガン・ユニバーシティ・カレッジ(OUC)」と改称しUBCとの連携を強化し、2004年には正式に「UBCオカナガン・キャンパス」が創設されることが公表された(UBC Archives, 2022)。現在のバンクーバー・キャンパスとオカナガン・キャンパスという2つのメイン・キャンパスは、これで整備されたということになる。

現在では、バンクーバー・キャンパスには「応用科学学部(Faculty of Applied Science)」、「建築学スクール(School of Architecture and Landscape Architecture)」、「教養学部(Faculty of Arts)」、「聴覚音声科学ス

クール (School of Audiology and Speech Sciences)」、 「ソーダー・ビジネス・スクール (Sauder School of Business, Vancouver School of Economics)」、 「コミュニティ地域計画学スクール (School of Community and Regional Planning)」、 「歯学部 (Faculty of Dentistry)」、 「教育学部 (Faculty of Education)」、 「継続学習部 (Extended Learning)」、 「林学部 (Faculty of Forestry)」、 「大学院学部 (Graduate and Postdoctoral Studies)」、 「報道メディア・スクール (School of Journalism, Writing, and Media)」、 「運動学スクール (School of Kinesiology)」、 「土地食料システム・スクール (Faculty of Land and Food Systems)」、 「ピーター・A・アラード・ロー・スクール (Peter A. Allard School of Law)」、 「情報学スクール (School of Information)」、 「医学部 (Faculty of Medicine)」、 「音楽学スクール (School of Music)」、 「看護学スクール (School of Nursing)」、 「人口公衆衛生学スクール (School of Population and Public Health)」、 「公共政策学・グローバル問題スクール (School of Public Policy and Global Affairs)」、 「薬学部 (Faculty of Pharmaceutical Sciences)」、 「理学部 (Faculty of Science)」、 「ソーシャルワーク・スクール (School of Social Work)」、 「UBC バンテージ・カレッジ (UBC Vantage College)」 など、 25 もの学部等が置かれている<sup>1</sup>。他方でオカナガン・キャンパスには、「アービング・K・バーバー教養社会科学学部 (Irving K. Barber Faculty of Arts and Social Sciences)」、 「クリエイティブ・クリティカル学部 (Faculty of Creative and Critical Studies)」、 「オカナガン教育スクール (Okanagan School of Education)」、 「工学スクール (School of Engineering)」、 「保健社会開発学部 (Faculty of Health and Social Development)」、 「管理学部 (Faculty of Management)」、 「アービング・K・バーバー理学部 (Irving K. Barber Faculty of Science)」、 「医学部 (Faculty of Medicine, Southern Medical Program)」、 「大学院カレッジ (College of Graduate Studies)」 の9学部等がある<sup>2</sup>。

表1は両キャンパスの学生数、教員数、双方の合計の一覧表である。学生数はバンクーバー・キャンパスで58,206名、オカナガン・キャンパスで12,551名、合計で70,757名であり、教員数も両キャンパス合わせて7,134名と、上述した多様な学部等の構成とも相俟って、カナダでも屈指の大規模大学であることは間違いない。また、2,165名が先住民学生であり、留学生の割合はバンクーバー・キャンパスで28.6%、オカナガン・キャンパスで21.8%となっており、合計すると25.2%と学生全体の4名に1名は留学生ということになる<sup>3</sup>。

表1 UBC キャンパス別学生数及び教職員数

	バンクーバー	オカナガン	合計
学生数	58,768	11,989	70,757
学部生	47,400	10,806	58,206
大学院生	11,368	1,183	12,551
教員数	6,466	668	7,134
職員数	10,799	1,020	11,819
教職員合計	17,265	1,688	18,953

出典：<https://www.ubc.ca/about/facts.html> (2023年4月18日採取) の記述を基に、筆者作成。

<sup>1</sup> [https://www.ubc.ca/our-campuses/vancouver/directories/faculties-schools.html#vancouver\\_school\\_of\\_economics](https://www.ubc.ca/our-campuses/vancouver/directories/faculties-schools.html#vancouver_school_of_economics) (2023年4月18日採取)。

<sup>2</sup> <https://ok.ubc.ca/academics/faculties-and-schools/> (2023年4月18日採取)。

<sup>3</sup> <https://www.ubc.ca/about/facts.html> (2023年4月19日採取)。

## 2. 大学院の概要

### (1) 大学院共通入学要件

「大学院学部」のウェブサイト<sup>4</sup>によると、大学院には各専攻に共通する最低入学要件が学位プログラムごとに設定されている。その上で各専攻が独自の入学要件を定めている。また、留学生が約4分の1を占めているということもあり、最低入学要件は出身国ごとに定められている。ウェブサイトでは、カナダ、アメリカ、その他の国とまず3つに分かれているが、カナダとアメリカはほぼ同じ要件となっている。修士課程については、UBCと同等の4年制の学士号を有していることが求められるうえに、3・4年次の成績が最低でも平均でB<sup>+</sup>（UBCでは76%）であることか、専門領域におけるAレンジ（A<sup>+</sup>、A<sup>-</sup>など）の成績（UBCでは80%以上）を3・4年次において最低12単位以上修めていることのいずれかを満たす必要がある。上記の要件を満たしていない場合でも、専門職経験に相当する著しいフォーマルな訓練を受けているか、特定の学位プログラムを修了し得ると判断されるに十分と思われる例証可能な知識あるいは専門性を有している場合、該当する学位プログラムの推薦と大学院学部長の承認に基づいて入学を許可される場合もある。博士課程については、Ph.D.の場合は承認された研究機関からの調査に関する能力あるいは潜在能力の明確な証拠のある修士号を有すること、Ed.D.の場合は承認された研究機関から授与された修士号を有することが基本的な入学許可要件とされるが、一定の条件の下上記要件が緩和されるオプションもある<sup>5</sup>。ちなみに日本出身者の場合は、修士課程では学士号の保有とそこでの成績がB<sup>+</sup>と同等であること、博士課程では修士の学位とB<sup>+</sup>以上の成績が求められる<sup>6</sup>。また、日本を含む英語を第一の教授言語としない大学の学位保持者は、TOEFL等の英語能力試験において所定の点数<sup>7</sup>を修める必要がある。上記の例外として、ボローニャ協定に加盟しているEU諸国の研究重視の大学で授与された3年制学士号を有する者の修士課程への入学は許可される。また、ケベック州のフランス語を教授言語とする大学の3年制学士号も、ケベック州独自の中等後教育機関であるセジェップ（Collège d'enseignement general et professsionnel: CEGEP）の修了資格（Diplome d'Etudes Collegiales: DEC）が事前に授与されている場合は、入学を許可される<sup>8</sup>。

### (2) コースベース／リサーチベース・プログラム

UBC大学院各学位プログラムには、コースベース・プログラム（course-based programs）とリサーチベース・プログラム（research-based programs）がある。前者は専門職プログラムと呼称される場合もあるが、学位取得のためにコースワークを修めることが求められるプログラムであり、学位論文の提出は通常求められないが、メジャー・プロジェクト（major projects）やキャップストーン・コース（capstone courses）、インターンシップ等が求められる場合はある。このプログラムの修了までの期間は短く、プログラムの多様性においてもより柔軟であるが、授業料は高くなる傾向にあり、昇進を目指していたり他の分野への移行を検討している一定の職務経験をもった専門職を主な対象としている。後者はプログラムの初期段階では一定のコースワークを課されるが、コースワーク終了後は教員の指導に下、個々が実施する調査に焦点をあて、最終的には学位論文を執筆するものである。リサーチベース・プログラムの修士課程（M.A.）は、多くは2年間、博士課程（Ph.D.）は通常5-7年間かかるとされている。リサーチ

<sup>4</sup> <https://www.grad.ubc.ca/prospective-students/application-admission/check-your-eligibility> (2023年4月21日採取)。

<sup>5</sup> <https://www.grad.ubc.ca/country/canada> (2023年6月5日採取)。

<sup>6</sup> <https://www.grad.ubc.ca/country/japan> (2023年6月5日採取)。

<sup>7</sup> <https://www.grad.ubc.ca/prospective-students/application-admission/english-language-test> (2023年4月21日採取)。

<sup>8</sup> <https://www.grad.ubc.ca/country/canada> (2023年4月21日採取)。なお、CEGEP及びDECについては、(小林, 2003) (平田, 2020c) を参照されたい。

チベース・プログラムで得られた学位は自らの専門領域の専門家となり、学術的キャリアを追及する可能性につながるものである<sup>9</sup>。

### 3. バンクーバー・キャンパス教育系大学院専攻別プログラム

UBC 教育学部は、上述の通りバンクーバー・キャンパスにあり、専攻別プログラム (Departmental Graduate Programs) と研究科横断プログラム (Faculty-Wide Programs) がある。本節では前者について検討することとする。専攻別プログラムは、「カリキュラム&ペダゴジー (Curriculum & Pedagogy: EDCP)」、「教育心理学・カウンセリング心理学・特別支援教育 (Educational and Counselling Psychology, and Special Education: ECPS)」、「教育学 (Educational Studies: EDST)」、「言語&リテラシー教育 (Language & Literacy Education)」の4専攻 (Department) と「運動学スクール (School of Kinesiology)」から構成されており、運動学スクール以外は教育系の学位プログラムを提供している。そこで本稿では、運動学スクールは検討の対象外とする。

表2は、運動学スクール以外の専攻別プログラムの一覧である。「カリキュラム&ペダゴジー (EDCP)」は「カリキュラム学 (Curriculum Studies)」、「芸術教育 (Art Education)」、「ビジネス教育 (Business Education)」、「家庭科教育 (Home Economics Education)」、「数学教育 (Math Education)」、「メディア・テクノロジー科教育 (Media and Technology Studies Education)」、「博物館教育 (Museum Education)」、「音楽教育 (Music Education)」、「保健野外体育教育 (Health, Outdoor and Physical Education)」、「科学教育 (Science Education)」、「社会科教育 (Social Studies Education)」の11の専門分野から成る<sup>10</sup>。「教育カウンセリング心理学・特別支援教育 (ECPS)」は「カウンセリング心理学 (Counselling Psychology: CNPS)」、「人的開発・学習・文化 (Human Development, Learning, and Culture: HDLC)」、「測定・評価・調査方法論 (Measurement, Evaluation, and Research Methodology: MERM)」、「学校応用児童心理学 (School and Applied Child Psychology: SACP)」、「特別支援教育 (Special Education: SPED)」という5つの専門領域 (program areas) に細分化される<sup>11</sup>。また、「教育学 (EDST)」は「成人学習&教育 (Adult Learning and Education: ALE)」、「成人学習&グローバルチェンジ (Adult Learning and Global Change: ALGC)」、「カリキュラム&リーダーシップ (Curriculum and Leadership: CULE)」、「教育行政学&リーダーシップ (Educational Administration and Leadership: EDAL)」、「教育的リーダーシップ&政策 (Educational Leadership and Policy)」、「教育学 (Educational Studies)」、「高等教育 (Higher Education: HIED)」、「教育における社会・文化・政治 (Society, Culture and Politics in Education: SCPE)」の8つの専門分野から<sup>12</sup>、「言語&リテラシー教育 (LLED)」は「リテラシー教育 (Literacy Education)」、「第二言語としての英語教育 (Teaching English as a Second Language: TESL)」、「現代言語教育 (Modern Language Education: MLED)」の3つの専門分野<sup>13</sup>から、それぞれ構成される。提供される学位プログラムは、これら専門分野によって異なる。

表 2 専攻別学位プログラム一覧

専攻／専門分野	M.A.	M.Ed.	Ph.D.	Ed.D.	その他
カリキュラム&ペダゴジー (EDCP) 専攻					
芸術教育	○R	○C			

<sup>9</sup> <https://www.grad.ubc.ca/prospective-students> (2023年4月24日採取)。

<sup>10</sup> <https://edcp.educ.ubc.ca/programs/masters-degrees/> (2023年4月19日採取)。

<sup>11</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/programs/> (2023年4月19日採取)。

<sup>12</sup> <https://edst.educ.ubc.ca/programs/> (2023年4月19日採取)。

<sup>13</sup> <https://lled.educ.ubc.ca/programs/> (2023年4月19日採取)。

カリキュラム学	○R	○C	○R		
カリキュラム&リーダーシップ*		○C			
保健野外体育教育	○R	○C			
家庭科教育	○R	○C			
数学教育	○R	○C			
博物館教育					
音楽教育	○R	○C			M.M.Ed.** C
科学教育	○R	○C			
社会科教育	○R	○C			
メディア・テクノロジー科教育	○R	○C			
教育学専攻 (EDST)					
成人学習&教育	○R	○C			
成人学習&グローバルチェンジ		○C			
カリキュラム&リーダーシップ*		○C			
教育行政学&リーダーシップ	○R	○C			
教育リーダーシップ&政策				○R	
教育学			○R		
高等教育	○R	○C			
教育社会・文化・政治学	○R	○C			
教育カウンセリング心理学・特別支援教育 (ECPS) 専攻					
カウンセリング心理学	○R	○C	○R		
人的開発・学習・文化	○R	○C	○R		
測定・評価・調査方法論	○R	○C	○R		
学校応用児童心理学	○R	○C	○R		
特別支援教育	○R	○C	○R		
言語&リテラシー教育 (LLED) 専攻					
リテラシー教育	○R	○C	○R		
現代言語教育	○R	○C			
第二言語としての英語教育	○R	○C	○R		

R：リサーチベース・プログラム，C：コースベース・プログラム

\* 「カリキュラム&リーダーシップ」は、カリキュラム&ペダゴジー専攻と教育学専攻教育行政学&リーダーシップ分野の協働プログラムである<sup>14</sup>。

\*\*Master of Music Education

出典：専攻・領域ごとの学位プログラムの種類については <https://educ.ubc.ca/grad/departmental-graduate-programs/> (2023年4月23日採取) を基に、リサーチベースかコースベースかについては <https://www.grad.ubc.ca/prospective-students/graduate-degree-programs> を基に、それぞれ筆者作成。

<sup>14</sup> <https://edst.educ.ubc.ca/programs/curriculum-and-leadership/> (2023年4月30日採取)。

以下、専攻別学位プログラムの内容を、専攻ごとに見ていくこととする。

### (1) カリキュラム&ペダゴジー (EDCP)

EDCPは10の専門領域から構成される専攻であり、美術、音楽、数学、科学、テクノロジー、社会科学、家庭科、体育といった公教育で教えられる多くのカリキュラム領域をカバーしているが、それに留まらず、カリキュラム学や教師教育、デジタル・メディアと学習テクノロジー、博物館教育など学際性の高いプログラムとなっている。学位プログラムとしては、M.A., M.Ed., Ph.D.に加えて、音楽教育に特化した修士号プログラムである「音楽教育学修士 (Master of Music Education)」プログラムも提供している。M.A.プログラムにおいては、コースワークを7授業21単位(1授業3単位<sup>15</sup>)修得することに加えて、9単位分の学位論文を執筆することが求められる。M.Ed.には2つのオプションがあり、オプション1はコースワークのみで10授業30単位を修得することが求められる。オプション2はコースワーク9授業27単位分の修得に加えて3単位分の修了ペーパー (Graduating Paper) を執筆することになる<sup>16</sup>。修了ペーパーとは、最終プロジェクトとして行われるM.Ed.修了プロジェクト(M.Ed. Graduating Project)において課されるものである<sup>17</sup>。Ph.D.においては、コースワークとして2つの「博士演習 (doctoral seminar)」と2つの調査方法に関する授業、及び2つの専門科目で合計18単位を修得することがまず求められる。学生は、通常すべてのコースワークの修得に2年間費やすことになり、その後2-3年かけて調査を実施し学位論文を執筆することになる。修了までの上限期間は6年である<sup>18</sup>。

### (2) 教育学 (EDST)

EDSTは、修士課程としては、M.A.は「成人学習教育 (Adult Learning and Education: ALE)」領域、「教育行政学&リーダーシップ (Educational Administration and Leadership: EDAL)」領域、「高等教育 (Higher Education: HIED)」領域、「教育社会・文化・政治学 (Society, Culture and Politics in Education: SCPE)」領域、の4つの領域、M.Ed.はこれらに「成人学習&グローバルチェンジ (Adult Learning & Global Change: ALGC)」領域を加えた5領域でそれぞれ構成されている。また、M.Ed.プログラムにおいては、EDST単独で提供されるプログラムは上述の5領域であるが、これらに加えて、カリキュラム&リーダーシップ (Curriculum & Leadership: CULE)がEDAL領域とEDCP専攻の協働プログラムとして提供されている。博士課程としては、Ph.D.は「Ph.D. in Educational Studies (Ph.D.教育学)」、Ed.D.は「教育リーダーシップ&政策 (Educational Leadership and Policy)」という形で提供されている<sup>19</sup>。合計すると、EDSTとしては、「カリキュラム&リーダーシップ」を含めて、表2にあるように8種類の学位プログラムを提供しているということになる<sup>20</sup>。2022年時点での在籍学生数は、修士課程163名、博士課程102名、学位授与数は118である<sup>21</sup>。

修士課程として、まずM.A.プログラムは学位論文ベース (Thesis-based) のプログラムとなっており、24単位分のコースワークに加えて6単位に相当する学位論文の執筆が修了要件となっている<sup>22</sup>。M.Ed.

<sup>15</sup> UBCでは通常1授業3単位で、13週39時間で構成される。<https://teach.educ.ubc.ca/admissions/apply/academic-requirements/check-your-eligibility/> (2023年4月30日採取)。

<sup>16</sup> <https://edcp.educ.ubc.ca/programs/> (2023年4月30日採取)。

<sup>17</sup> <https://edcp.educ.ubc.ca/programs/masters-degrees/> (2023年4月30日採取)。

<sup>18</sup> <https://edcp.educ.ubc.ca/programs/doctorate-programs/> (2023年5月18日採取)。

<sup>19</sup> <https://edst.educ.ubc.ca/programs/> (2023年6月7日採取)。

<sup>20</sup> <https://edst.educ.ubc.ca/about/> (2023年4月30日採取)。

<sup>21</sup> <https://www.grad.ubc.ca/unit/departement-educational-studies> (2023年5月1日採取)。

<sup>22</sup> [https://edst.educ.ubc.ca/programs/ma-in-educational-studies/#tab\\_Requirements-2](https://edst.educ.ubc.ca/programs/ma-in-educational-studies/#tab_Requirements-2) (2023年4月30日採取)。



プログラムでは、修了要件 30 単位すべてをコースワークで修めるオプションと、27 単位をコースワークで修め、残り 3 単位を修了ペーパーに充てるオプションがある<sup>23</sup>。修得すべきコースワークは領域によって異なる<sup>24</sup>。博士課程としては、Ph.D.教育学は、教育学専攻内のいずれの専門分野をも対象とし得る博士プログラムである。修了までの期間については、すべてのコースワークを修了するのに 2 年、調査プロジェクトの立ち上げから実施まで 2 年から 4 年かかるのが通例であり、修了までの期間の上限は 6 年となっている<sup>25</sup>。Ed.D. 教育リーダーシップ&政策は、例えば K-12 学校制度だけでなく、中等後教育機関や民間企業、保健機関、労働組合、コミュニティ・グループといったフォーマル及びインフォーマルなセッティングにおけるリーダーシップや政策上の責任を有する教育実践家のための上級編である。当該プログラムは教育的セッティングにおいて実践を理解し、批判し、改善することに関する学術的言説に従事することが受講者にとって重要であるという認識に基づいてデザインされており、6 つの必修演習 (seminar)、2 つの選択授業、理解度テスト (comprehensive examination) と学位論文によって構成されている<sup>26</sup>。

### (3) 教育心理学・カウンセリング心理学・特別支援教育 (ECPS)

ECPS は、「カウンセリング心理学 (CNPS)」領域、「人的開発・学習・文化 (HDLC)」領域、「測定・評価・調査方法論 (MERM)」領域、「学校応用児童心理学 (SACP)」領域、「特別支援教育 (SPED)」領域の 5 領域から構成されており、すべての領域で M.A., M.Ed., Ph.D.のプログラムが提供されている<sup>27</sup>。

#### ① 「カウンセリング心理学 (CNPS)」領域

CNPS 領域の M.A.プログラムは、さらに「コミュニティ&エージェンシー・カウンセリング (Community & Agency Counselling)」、「高等教育におけるカウンセリング (Counselling in Higher Education)」、「学校カウンセリング (School Counselling)」の 3 分野に分かれる。いずれの分野においても応募する前に「CNPS 362 Basic Interviewing Skills」(3 単位)、「CNPS 363 Career Counselling」(3 単位)、「CNPS 365 Introduction to Theories of Counselling」(3 単位)、「EPSE 482 Introduction to Statistics for Research in Education」(3 単位)、その他「異常心理学 (Abnormal Psychology)」あるいは「行動障害 (Behaviour Disorders)」の授業を 3 単位、「学習 (Learning)」の授業 3 単位を、前提条件 (prerequisites)<sup>28</sup>として修得しておかなければならない。これらの前提条件単位は、ウェブサイト上にある承認された他大学の授業で代替することもできる<sup>29</sup>。そして就学を継続した上での修了要件としては、必修授業を 48 単位、調査方法に関する選択授業を 3 単位、その他の選択授業を 3 単位、修士論文 6 単位、合計 60 単位を修得する必要がある<sup>30</sup>。M.Ed.も M.A.と同様の 3 分野から構成されており、前提条件としての修得授業・単位数は M.A.と同様で

<sup>23</sup> [https://edst.educ.ubc.ca/programs/med-programs/#tab\\_Requirements-2](https://edst.educ.ubc.ca/programs/med-programs/#tab_Requirements-2) (2023 年 4 月 30 日採取)。

<sup>24</sup> [https://edst.educ.ubc.ca/programs/adult-learning-and-education/#tab\\_Requirements-2](https://edst.educ.ubc.ca/programs/adult-learning-and-education/#tab_Requirements-2) (2023 年 5 月 1 日採取)。

<sup>25</sup> <https://edst.educ.ubc.ca/programs/phd-in-educational-studies/> (2023 年 6 月 6 日採取)。

<sup>26</sup> <https://edst.educ.ubc.ca/programs/edd-in-educational-leadership-and-policy/> (2023 年 5 月 15 日採取)。

<sup>27</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/about/> (2023 年 5 月 18 日採取)。

<sup>28</sup> 入学要件と異なり、申請時に前提条件を満たしていない場合は、入学後に満たすことも可能である。

<sup>29</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/counselling-psychology/graduate-programs/ma-program-prerequisites/> (2023 年 5 月 19 日採取)。

<sup>30</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/counselling-psychology/graduate-programs/ma-program-prerequisites/community-agency-counselling/>, <https://ecps.educ.ubc.ca/counselling-psychology/graduate-programs/ma-program-prerequisites/counselling-in-higher-education/>, <https://ecps.educ.ubc.ca/counselling-psychology/graduate-programs/ma-program-prerequisites/school-counselling/> (2023 年 5 月 19 日採取)。

ある<sup>31</sup>。修了要件も3分野同様で、必修授業を39単位、調査方法に関する選択授業3単位、その他の選択授業を6単位、合計48単位を修得することとされている<sup>32</sup>。M.A.プログラムへの入学要件は、UBC大学院プログラムへの最低入学要件を満たすことに加えて、上述の前提条件単位を修得していること、入学希望のプログラムに合致する学士号を有していること、学部4年次の成績がB+であること、3年以上の子どもや青少年に対する教育あるいはソーシャルサービスの職業経験、調査経験（学部での学位プロジェクトやボランティアの調査アシスタント経験などを含む）、「卒業記録試験（Graduate Record Examination: GRE）」の言語能力試験（Verbal）で153点、数学能力試験（Quantitative）で144点、分析論述試験（Analytical Writing）で3.5点を最低でも取得していることとされている<sup>33</sup>。M.Ed.の前提条件もほぼ同様であるが、GREは含まれない<sup>34</sup>。Ph.D.は4年間のフルタイムで、コースワークを51単位、理解度テスト（comprehensive examination）、1,600時間のインターンシップ、及び博士論文の執筆をもって修了要件とされている<sup>35</sup>。入学要件としては、UBC大学院プログラムへの最低入学要件を満たすことに加えて、まずCNPSのM.A.と同等と思われる修士号を有しており、そこでは学位論文を執筆しているかあるいは調査プロジェクトを実施していること、カウンセリング心理学あるいは極めて関連の深い分野において専門的カウンセリングを提供するための指導をうけたことがあり、成績が80%以上であることが挙げられている。またGREのスコアを提出する必要もあるが、M.A.とは異なり、ウェブサイト上にクリアすべき点数については言及がない。珍しい要件としては、カウンセリングスキルを録画した30分のビデオ（MP4フォーマット）をCNPSのPh.D.アドミッション・ビデオ・ポータルにアップロードすることが挙げられよう<sup>36</sup>。

## ② 「人的開発・学習・文化（HDLC）」領域

HDLC領域のうち、M.Ed.は「M.Ed.総合（M.Ed. General）」、「M.Ed.自己規制学習（M.Ed. Concentration in Self-Regulated Learning）」、「M.Ed.社会的情動的学習（M.Ed. Concentration in Social and Emotional Learning）」の3分野から構成される<sup>37</sup>。3分野ともに通常2年間で修了する30単位のコースワーク・プログラムであり、学位プログラム開始前に調査方法に関するコースワークの経験がない者については、「EPSE 483 Reading and Interpreting Research in Education」の受講が前提条件となる。これは、修了要件単位には含まれない。「M.Ed.総合」では3分野共通の領域必修科目である「EPSE 501 Seminar in Human Development, Learning, and Culture」, 「EPSE 503 Cultural Perspectives on Learning, Development, and Media」, 「EPSE 505 Foundations in Human Development: Infancy to Adulthood」の3科目、指定された8科目から3科目を選ぶ選択必修科目、その他選択科目を3つ、領域共通の「修了セミナー（EPSE 590 Graduating Seminar）」の修得が修了要件になっている<sup>38</sup>。「M.Ed.自己規制学習」分野においては、領域必修の3科

<sup>31</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/counselling-psychology/graduate-programs/med-program-prerequisites/> (2023年5月19日採取)。

<sup>32</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/counselling-psychology/graduate-programs/med-program-prerequisites/cnps-med-community-counselling-program/>, <https://ecps.educ.ubc.ca/counselling-psychology/graduate-programs/med-program-prerequisites/cnps-med-counselling-in-higher-education/>, <https://ecps.educ.ubc.ca/counselling-psychology/graduate-programs/med-program-prerequisites/cnps-med-school-counselling-program-requirements/> (2023年5月19日採取)。

<sup>33</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/counselling-psychology/application-info/> (2023年5月19日採取)。

<sup>34</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/counselling-psychology/application-info/> (2023年5月19日採取)。

<sup>35</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/counselling-psychology/graduate-programs/phd-program/> (2023年5月19日採取)。

<sup>36</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/counselling-psychology/application-info/> (2023年5月22日採取)。

<sup>37</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/human-development-learning-and-culture/hdlc-graduate-programs/hdlc-med-program/> (2023年5月22日採取)。

<sup>38</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/human-development-learning-and-culture/hdlc-graduate-programs/hdlc-med-program/m-ed->

目に加えて、分野必修の4科目「EPSE 598 Field Experiences」, 「EPSE 583 Self-Regulated Learning in Education [formerly EPSE 565R]」, 「EPSE 584 Motivation in Education」, 「EPSE 585 Social and Emotional Development in Education」, 選択科目を2科目, それに「修了セミナー」が修了要件となっている<sup>39</sup>。「M.Ed.社会的情動的学習」分野の修了要件は、領域必修科目3科目, 分野必修科目が「EPSE 585 Social and Emotional Development in Education」と「EPSE 561H Practicum in Social and Emotional Learning」の2科目, 選択科目として13科目から4科目, それに「修了セミナー」となっている<sup>40</sup>。

M.A.も同様に「M.A.総合 (M.A. General)」, 「M.A.自己規制学習 (M.A. Concentration in Self-Regulated Learning)」, 「M.A.社会的情動的学習 (M.A. Concentration in Social and Emotional Learning)」の3分野から構成されるが、いずれも修了するには学位論文の執筆(「EPSE 599 Master's Thesis」の受講)が要求されるリサーチ・プログラムである。3分野ともに調査方法論に関する授業を受けていない学生は、前提条件として調査に関する授業を受けなければならない、またそれは修了要件単位には含まれないということはM.Ed.と同様であるが、対象となる授業が「EPSE 481 Introduction to Research in Education」, 「EPSE 482 Introduction to Statistics for Research in Education」の2つであり、授業そのもの及び授業数が異なる。修了要件単位数はM.Ed.と同様30単位であり、修士論文6単位に加えて、コースワークとして3分野共通の領域必修科目「EPSE 501 Seminar in Human Development, Learning, and Culture」, 「EPSE 503 Cultural Perspectives on Learning, Development and Media」, 「EPSE 505 Foundations in Human Development: Infancy to Adulthood」の3つの授業9単位が必修となっている。分野別のコースワークとしては、「M.A.総合」は「追加的必修選択授業」として8授業から3つ, 調査方法論要件授業として「EPSE 592 Experimental Designs and Analysis in Educational Research」, 「EPSE 596 Correlational Designs and Analysis in Educational Research」, 「EPSE 595 Qualitative Methodologies in Educational Psychology and Special Education」の3つから、量的調査(EPSE 592か596)と質的調査(EPSE 595かそれと同等の授業)に関する授業を1つずつ修得しなければならない<sup>41</sup>。「M.A.自己規制学習」は分野必修授業として「EPSE 584 Motivation in Education」, 「EPSE 585 Social and Emotional Development in Education」, 「EPSE 583 Fostering Self-Regulated Learning [formerly EPSE 565R]」の3授業と、調査方法要件授業としては2授業修得する必要があるが、上述の「EPSE 595」は必修であり、もう1つの授業は「EPSE 592」か「EPSE 596」のいずれか1つを選択しなければならない<sup>42</sup>。「M.A.社会的情動的学習」は、分野必修として「EPSE 585 Social and Emotional Development in Education」と「EPSE 561H Practicum in Social and Emotional Learning」の2授業, 分野選択必修として13授業から2授業を選択して修得しなければならない。その他、調査要件授業としては、「M.A.自己規制学習」と同じく、「EPSE 595」は必修であり、「EPSE 592」か「EPSE 596」のいずれかを修得することが求められる<sup>43</sup>。

Ph.D.については、前提条件として教育心理学・発達心理学・認知心理学あるいはそれらと関連する分野におけるM.A.あるいはそれと同等の学位を修了していることが求められるが、それは上述したM.Ed.

[general-program/](#) (2023年5月22日採取)。

<sup>39</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/human-development-learning-and-culture/hdlc-graduate-programs/hdlc-med-program/m-ed-concentration-in-self-regulated-learning-srl/> (2023年5月22日採取)。

<sup>40</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/human-development-learning-and-culture/hdlc-graduate-programs/hdlc-med-program/m-ed-concentration-in-social-and-emotional-learning-sel/> (2023年5月22日採取)。

<sup>41</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/human-development-learning-and-culture/hdlc-graduate-programs/hdlc-ma-program-requirements/general-program/> (2023年5月22日採取)。

<sup>42</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/human-development-learning-and-culture/hdlc-graduate-programs/hdlc-ma-program-requirements/concentration-in-self-regulated-learning-srl/> (2023年5月22日採取)。

<sup>43</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/human-development-learning-and-culture/hdlc-graduate-programs/hdlc-ma-program-requirements/concentration-in-social-emotional-learning-sel/> (2023年5月22日採取)。

及び M.A. 双方の領域必修科目である「EPSE 501」, 「EPSE 503」, 「EPSE 505」の 3 科目と, 調査方法関連授業である「EPSE 592」と「EPSE 595」の 2 科目すべての修得に相当する。その上で修了するためには, 領域必修授業を 6-12 単位分 (2-4 授業), 調査方法要件授業を 6-12 単位分, 追加的領域要件科目 (Additional Content Requirements) を 6 単位分修得した上で, 「理解度テスト」の合格と博士論文の執筆・審査合格といった要件を満たす必要がある<sup>44</sup>。

### ③ 「測定・評価・調査方法論 (MERM)」領域

MERM 領域に関しては, まず「測定 (Measurement)」は教育評価, 心理測定, 標準化テストの構築と利用, 項目応答理論 (item response theory), 異文化間評価 (cross-cultural assessment) などを, 「評価 (Evaluation)」にはプログラム評価やカリキュラム評価を, 「調査方法 (Research Methodology)」は疑似実験的 (quasi-experimental) でヒエラルキー的あるいは多層 (multi-level) のモデル, 成長と変化の分析, 弁証法 (dialectics), 質的アプローチ等を含むものとされる。当該領域は本質的に学際的であり, ECPS や教育学部, 人間健康科学 (human and health sciences) の多くの調査活動の中核に位置付けられるものであり, 人体解剖学 (Human Kinetics), 商学, 歯学, 林学, 保健学, 看護学, 心理学, ソーシャルワーク学など教育学部を横断する形で学生による需要が高い授業を提供している<sup>45</sup>。

MERM 領域の M.A. プログラムは, 前提条件として「EPSE 481 Introduction to Research in Education)」と「EPSE 482 Introduction to Statistics for Research in Education」あるいはそれと同等と認められる授業を 80%以上の成績で修得しておく必要がある。また, 教育心理学あるいはカウンセリング心理学, 心理学, 教育学における学術的バックグラウンドと, それらに関連する経験が必要とされており, そうしたバックグラウンドのない学生には, 修了要件単位数にいくらか追加した単位数の修得が求められる。これは M.Ed. プログラムも同様である。M.A. プログラムの修了要件単位数は 30 単位であり, 内訳は必修科目が「EPSE 528 Basic Principles of Measurement」, 「EPSE 592 Experimental Designs and Analysis in Educational Research」, 「EPSE 595 Qualitative Research Methods」, 「EPSE 596 Correlational Designs and Analysis in Educational Research」の 4 授業 12 単位, 調査方法論関連の 10 授業から 4 つ (12 単位分) を選ぶ選択科目, 学位論文「EPSE 599 Master's Thesis」6 単位となっている<sup>46</sup>。M.Ed. プログラムも修了要件単位数は 30 単位であり, 必修科目の種類・数は M.A. と同様である。調査方法に関する方法論の選択必修科目数が, M.A. が 12 単位だったのに対し M.Ed. は 18 単位と 6 単位多いが, その分 M.Ed. では学位論文 6 単位が課されていない<sup>47</sup>。Ph.D. プログラムにおける修了までのプロセスとしては, コースワークや演習科目の修得, 文献講読, 適当な場合は学生の関心分野に関連するフィールドワークを修得し, 理解度テストに向けての準備をすることになる。コースワークとしては, まず調査方法基礎に関しては, 「測定」(e.g., EPSE 528, Basic Principles of Measurement) や「変数分析」(e.g., 「EPSE 592 Analysis of Variance in Educational Research」), 「質的解釈的方法」(e.g., 「EPSE 595 Qualitative Methodologies in Educational Psychology and Special Education」), 「相関性あるいは重回帰」(e.g., 「EPSE 596 Multiple Regression in Educational Research」) における大学院レベルの授業は, 既に修士レベルで修得していることが想定されている。その上で,

<sup>44</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/human-development-learning-and-culture/hdlc-graduate-programs/hdlc-phd-program/hdlc-phd-program-requirements/> (2023 年 5 月 22 日採取)。

<sup>45</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/measurement-evaluation-and-research-methodology/> (2023 年 5 月 23 日採取)。

<sup>46</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/measurement-evaluation-and-research-methodology/mERM-graduate-programs/mERM-ma/> (2023 年 5 月 23 日採取)。

<sup>47</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/measurement-evaluation-and-research-methodology/mERM-graduate-programs/mERM-med/> (2023 年 5 月 23 日採取)。

MERM 領域の 600 レベルの授業 (MERM 領域ウェブサイト<sup>48</sup>には、「EPSE 681 an advanced topics」, 「EPSE 682 Multivariate Designs and Analysis in Educational Research」, 「EPSE 683 Hierarchical Linear Modeling, Growth and Change」, 「EPSE 684 Item Response Theory」のみ記載あり) を 3 つ以上修得することが求められる。その上で、学生の興味関心によっては、指導教員との協議や指示に基づいて、MERM 領域以外の調査方法関連の上級編の授業や、人的発達や心理学、カルチュラルスタディーズといった MERM 領域以外の内容に関する授業の修得が求められる場合もある。その上で、MERM 領域の必修授業における成績が 85%以上の学生のみが、理解度テストを受ける資格を得ることになる。理解度テストは、MERM 領域の教授 3 名で構成される審査委員会によって提示されたトピックに関する理解度を示すレポートを提出することによって審査される。レポート執筆に際しては、4 週間が与えられる。理解度テストの内容は当該学生の学位論文のテーマと関連する場合もあるが、その一部となるべきではないとされる。理解度テストでは口述審査も課されることとなっており、学生は執筆した理解度テスト用のレポートの要旨に関するプレゼンテーションを行い、審査委員からの質問に答えるという形で実施される。口述審査後、学生はすぐに結果を得ることになっている。不合格となった場合、学生は審査委員会が要求する理解度テストの全過程あるいは一部についてレポートを再提出し、あるいはもう一度口述審査を受ける、あるいはその両方を行うことになる。理解度テストに合格した上で、博士学位論文を執筆することになる<sup>49</sup>。

#### ④ 「学校応用児童心理学 (SACP)」領域

SACP 領域の M.Ed.プログラムは、BC 州学校心理士協会 (British Columbia Association of School Psychologists: BCASP) の学校心理士としての州資格を取得するためにデザインされており、修了者は学校心理士として学校ベースの職場で働くことが期待される。入学に際しては、上述の UBC 大学院の最低入学要件の他に、次の前提条件を満たす必要がある。まず、心理学、教育心理学、あるいは特別支援教育、及び「CNPS 362 Basic Interviewing Skills」を含むあるいはそれと同等の学部授業に関連する領域における授業を 18 単位修得することが挙げられる。応募に際して心理学あるいは教育学の学位は必要とされないが、こうしたコースワークの経験や背景は有益であるとされる。次に、「EPSE 481 Introduction to Research in Education」及び「EPSE 482 Introduction to Statistics for Research in Education」と同様の内容を有する統計及び調査方法論双方における学部の上級学年 (upper division) で設置されている授業を修得していることである。また、例えば学齢児童生徒対応における成功体験や学校ベースの経験、教員免許など (教員免許が要求されるわけではない)、学生の児童生徒に対応する専門職に関する適格性を示す証拠も求められる。加えて、GRE の言語能力試験 (Verbal) で 153 点、数学能力試験 (Quantitative) で 144 点を取得していることも要件とされる。更に、犯罪歴調査の完了も必要である。修了までの期間は 3 年であり、最初の 2 年間で対面式の授業として 9 科目 27 単位の修得が求められる。また、2 年目には 9 か月の実習を、3 年目には 10 か月 (1,200 時間) のインターンシップを実施しなければならない<sup>50</sup>。

M.A.は 2 年間のプログラムであり、学生としては修了後直接 Ph.D.プログラムへ進学する者を想定してデザインされている。応募に際しては、M.Ed.と同様の前提条件に加えて、何らかの形での調査経験 (調査アシスタント等を含む) があることが望ましいとされる。修了要件は、コースワーク (36 単位)、

<sup>48</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/measurement-evaluation-and-research-methodology/merm-courses/> (2023 年 5 月 24 日採取)。

<sup>49</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/measurement-evaluation-and-research-methodology/merm-graduate-programs/merm-phd/> (2023 年 5 月 25 日採取)。

<sup>50</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/sacp/graduate-programs/med-program/> (2023 年 5 月 25 日採取)。

実習（12単位）、学位論文の執筆（6単位）であり、全部で54単位修得しなければならない<sup>51</sup>。

Ph.D.に関しては、UBCのM.A.プログラムと同等の修了要件を課している学校応用児童心理学におけるM.A.を持っていること、大学院あるいは学部上級学年（senior undergraduate）において人的開発に関する授業3単位、心理学の歴史とシステム3単位、行動の生物学的基礎6単位、基礎的インタビュー・スキル3単位を修得することが前提条件として挙げられており、入学前に満たせない場合は入学後に修得することが求められる。修了要件としては、コースワーク（23単位）、インターンシップ（3単位）、実習（12単位）、理解度テスト、学位論文が課されており、合計38単位を修得することが求められる。これらのうち、実習は1・2年目に行われ、インターンシップは4年目か5年目に、自身の学位論文の焦点と進捗状況に応じて行われる<sup>52</sup>。

#### ⑤ 「特別支援教育（SPED）」領域

SPED領域M.A.プログラム入学の前提条件としては、「EPSE 312 Introduction to the Study of Exceptional Children」か「EPSE 317 Development and Exceptionality in the Regular Classroom」「EPSE 481 Introduction to Research in Education」のいずれかと「EPSE 482 Introduction to Statistics for Research in Education」、あるいはこれらに相当する授業を修得しておくことが挙げられている<sup>53</sup>。M.Ed.プログラム入学については、「EPSE 312 Introduction to the Study of Exceptional Children」か「EPSE 317 Development and Exceptionality in the Regular Classroom」のいずれかと「Reading and Interpreting Research in Education (or course that has been deemed to be a replacement for EPSE 483)」の修得が前提条件とされている。いずれも、入学時に未修得の分については入学後に当該プログラムのコースワークとは別に修得することが求められる。また、いずれのプログラムも、入学前にUBC教師教育オフィスで犯罪歴調査を完了させる必要がある<sup>54</sup>。

M.A.プログラム及びM.Ed.プログラムには、それぞれ「自閉症と発達障害（Autism and Developmental Disabilities）」、「行動障害（Behaviour Disorders）」、「視覚障害（Blindness and Visual Impairment）」、「聴覚障害（Deaf and Hard of Hearing）」、「ハイ・アビリティ（High Ability）」、「学習障害（Learning Disabilities）」、「インクルーシブ教育支援（Supporting Inclusive Education）」の7つの分野（concentration）がある。必修科目及びその数はそれぞれのプログラム・分野によって異なるが、M.A.プログラムでは、M.Ed.にはない調査関連の授業（3単位）と学位論文（6単位）が課されており、逆にM.Ed.ではM.A.にはない「修了セミナー（EPSE 590 Graduating Seminar）」が課される<sup>55</sup>。Ph.D.プログラムにおいては、調査方法論必修科目を3単位、SPED領域必修科目を少なくとも3単位（修士課程で修得した科目は含まれない）、理解度テスト、博士論文の執筆が修了要件とされている<sup>56</sup>。

#### (4) 言語&リテラシー教育（LLED）

LLED専攻においては、「社会正義（social justice）」の視点から、言語やリテラシーの教育は「特権と抑圧」のシステムを永続させることもできるが変質させることもできるという認識に立ち、人的、言語的、認識論的多様性やエクィティを肯定する反人種差別的で脱植地的な持続可能なコミュニティの確

<sup>51</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/sacp/graduate-programs/ma-program/>（2023年5月25日採取）。

<sup>52</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/sacp/graduate-programs/phd-program/>（2023年5月26日採取）。

<sup>53</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/special-education/graduate-concentrations/ma-concentrations/>（2023年5月26日採取）。

<sup>54</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/special-education/graduate-concentrations/med-concentrations/>（2023年5月26日採取）。

<sup>55</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/special-education/graduate-concentrations/>（2023年5月28日採取）。

<sup>56</sup> <https://ecps.educ.ubc.ca/special-education/graduate-concentrations/phd-degree/>（2023年5月28日採取）。

立を担うリーダーの養成が目的とされている<sup>57</sup>。学位プログラムとしては、リテラシー教育 (LITR)、現代言語教育 (MLED)、第二言語としての英語教育 (TESL) それぞれの領域に M.Ed.と M.A.があり、博士課程としては Ph.D.が専攻横断的に設置されている。修士課程に関しては、両学位プログラムの修了要件は分野を跨って同様のものとなっている。即ち、M.Ed.プログラムの修了要件は30単位分のコースワークを修得することであり、そのうち24単位は500レベル(大学院レベル)の授業でなくてはならないことや「EDUC 500 Research Methodology in Education」を含まなければならないこと、12単位は各分野の500レベルの授業であること、9単位はLLED領域あるいはその他の領域の500レベルの授業であること、6単位は300あるいは400レベル(学部レベル)の授業でもよいこと、3単位は「LLED 590 Graduating Project」(Capstone Experience, キャップストーン演習)に充てることもできること(要件ではない)、修了までの上限期間は5年であること、等である。M.Ed.はコースワーク・プログラムであるため、学位論文は課されない。M.A.プログラムの修了要件単位はM.Ed.と同様30単位であり、そのうち24単位は500レベル以上であること、「EDUC 500」は必修であること、12単位は各分野の500レベルの授業であること、修了上限期間が5年であることもM.Ed.と同様であるが、リサーチベース・プログラムであるため、修士論文の執筆(9単位)が課される。

Ph.D.は特に分野に分かれてはおらず、LLED領域のPh.D.という位置づけである。修了要件としては、コースワークは18から24単位分修得すること、「LLED 601 Theories for Language and Literacy Research」と「LLED 602 Critical Analysis of Issues and Methodology in Language and Literacy Education」は必修であることなどの他に、演習(seminars)を受けること、コースワークの修得と理解度テスト及び研究計画書(dissertation proposal)審査に合格し「候補者資格(candidacy)」を入学から3年以内に取得すること、その上で博士論文を執筆し審査に合格することとされている。Ph.D.を修了する期間の上限は6年である。また、フルタイム学生のみである<sup>58</sup>。

#### 4. バンクーバー・キャンパス教育系大学院研究科横断プログラム

上述の専攻別プログラムに加えて、バンクーバー・キャンパス教育系大学院には研究科横断プログラム(Faculty-Wide Graduate Programs)に分類されるものもある。これは、専攻や学術性の境界を跨いだ事項に焦点を当てるものであり、「先住民教育学(Indigenous Education)」、「幼児教育学(Early Childhood Education: ECED)」、「教育テクノロジー(Educational Technology)」の3つのプログラムがある。これらプログラムの運営は、教育学部の各専攻分野からの代表によって行われる<sup>59</sup>。

表3は、それぞれの専攻と学位プログラムの一覧である。先住民教育学専攻はM.Ed.のみ、幼児教育学専攻はM.A.とM.Ed.(M.Ed.には対面式・フルタイムと、オンライン式・パートタイムの2種類あり)、教育テクノロジー専攻(Educational Technology)は教育テクノロジー修士(Master of Educational Technology: MET)のみの学位プログラムとなっている。いずれも修士課程のみのプログラムであり、博士課程はない。本稿はM.Ed.とEd.D.,及びそれらの比較対象としてのM.A.とPh.D.を考察対象としており、METはこれらから外れるため、以下ではMET以外の学位プログラムについて検討することとする。

表3 学部全体学位プログラム一覧

専攻	M.A.	M.Ed.	その他
----	------	-------	-----

<sup>57</sup> <https://lled.educ.ubc.ca/about/> (2023年5月30日採取)。

<sup>58</sup> <https://lled.educ.ubc.ca/students/prospective-students/graduate-degrees-offered/> (2023年5月31日採取)。

<sup>59</sup> <https://educ.ubc.ca/grad/faculty-wide-graduate-programs/> (2023年4月23日採取)。

先住民教育学		○ (M.Ed. in Indigenous Education) C	
幼児教育学	○R	○C	
教育テクノロジー			○ (Master of Educational Technology) C

R：リサーチベース・プログラム，C：コースベース・プログラム

出典：専攻ごとの学位については <https://educ.ubc.ca/grad/faculty-wide-graduate-programs/>（2023年4月23日採取）を基に，リサーチベースかコースベースかについては <https://www.grad.ubc.ca/prospective-students/graduate-degree-programs>（2023年5月17日採取）を基に，それぞれ筆者作成。

## (1) 先住民教育学

先住民教育学の M.Ed.プログラムのウェブサイト<sup>60</sup>においては，まず近年の BC 州における K-12 カリキュラム改革によって先住民の学習原理がすべてのカリキュラム領域や学年レベルを跨って統合されるようになってきたという変化が生じており，先住民児童生徒や家族への支援を高めたり，先住民学習者の教育成果を改善したり，すべての児童生徒に重要な先住民教育経験を提供したりするために，先住民教育における新たなイニシアティブや政策，要求に専門職として備えることが教育者にとって重要なことになっているということが指摘されており，そこから先住民教育 M.Ed.学位の重要性が導出されている。その上で，当該プログラムの目的として次の5点を挙げている。即ち，「理論と実践双方における先住民の知識，歴史，世界観に関する理解を深めること」，「教室，学校，コミュニティベースのプログラムやセッティングのための先住民教育の知識や実践，ペダゴジーを使用しサポートする指導力やリーダーシップ・スキルを強化すること」，「先住民の世界観や知識体系に対し既存のカリキュラム枠組や構造をより文化的に応答的にするためにそれらを分析し応用すること」，「先住民教育政策やカリキュラム，プログラムの開発や修正においてリーダーシップを提供すること」，「『真実と和解委員会 (Truth and Reconciliation Commission)』と『先住民族の権利に関する国際連合宣言 (United Nations Declaration on the Rights of Indigenous Peoples: UNDRIP)』の関与を進歩させる先住民学習者や先住民，先住民コミュニティへの関与のための知識や実践を開発すること」等である<sup>61</sup>。修了要件単位数は30単位であり，修了までに平均して2年半かかるとされており，パートタイムでの就学のみが認められている。授業はブレンド方式で実施され，秋・冬学期はオンライン方式で実施され，夏学期は1週間集中の対面式で行われる。30単位の内訳は，授業番号及び授業名が特定されている授業が「EDST 591 Indigenous Epistemology and Curriculum」，「ETEC 521 Indigeneity, Technology, and Education」，「EDUC 500 Research Methods (Indigenous emphasis)」，「EDCP 532 Theories and Dimensions of Place-based Learning: Ecohumanist, Critical and Indigenous Lenses」，「EDST 545 Indigenous Inquiry and Research」，「LLED 513 Indigenous Storytelling in Education and Research」，「EDCP/EDST/LLED 590 Capstone Projects」の7つであり，3科目が選択授業となっている<sup>62</sup>。

## (2) 幼児教育 (ECED)

ECED は生後9歳までの幼児に焦点を当てた多くの学部及び大学院プログラムを跨って提供しており，そこでは教員や幼児教育教育者，その他の幼児教育関連専門職は幼児を対象とする自らの仕事を対象と

<sup>60</sup> [https://pdce.educ.ubc.ca/med\\_indigenous/](https://pdce.educ.ubc.ca/med_indigenous/)（2023年6月1日採取）。

<sup>61</sup> [https://pdce.educ.ubc.ca/med\\_indigenous/#tab\\_Objectives-0](https://pdce.educ.ubc.ca/med_indigenous/#tab_Objectives-0)（2023年6月1日採取）。

<sup>62</sup> [https://pdce.educ.ubc.ca/med\\_indigenous/#tab\\_Schedule-1](https://pdce.educ.ubc.ca/med_indigenous/#tab_Schedule-1)（2023年6月1日採取）。



して、幼児教育に関する調査や理論、実践に関する事項を探究する機会を得るとされている<sup>63</sup>。上述の通り幼児教育専攻にはオンキャンパス M.A.とオンキャンパス M.Ed., 及びオンライン・パートタイム M.Ed.の3つの学位プログラムがある。

M.A.プログラムは幼児教育に関する調査、理論、実践における事項を探究することを望む教育者や幼児教育専門職のためにデザインされており、幼児教育におけるコアコースと研究科の他の専攻の関連する授業から構成される学際的かつ横断的なプログラムである。鍵となる分野としては、幼児教育の理論、調査と調査方法論、幼児教育カリキュラム、指導法、評価、その他幼児教育における研究科横断的な探究である。M.A.プログラムの学生の大多数は教育者であるが、当該プログラムは看護、心理学、ソーシャルワークといった幼児教育とケアに関連する職業者にも適している。修了要件単位数は30単位であり、「ECED 508 Review of Research in Early Childhood Education」, 「ECED 585 Advanced Seminar in Early Childhood Education」, 「EDUC 500 Research Methodology in Education」の他に調査方法に関する授業を3単位、選択科目を9単位、学位論文9単位を修得することとされており、30単位中24単位以上は大学院レベルの授業である必要がある<sup>64</sup>。

オンキャンパス M.Ed.は、コースベース・プログラムであり、30単位分のコースワークのみのオプションと27単位分のコースワークに加えて3単位分の修了プロジェクトを行うオプションとがある<sup>65</sup>。いずれのオプションも「ECED 508 Review of Research in Early Childhood Education」, 「ECED 585 Advanced Seminar in Early Childhood Education」, 「EDUC 500 Research Methodology in Education」の3授業は必修とされており、前者に関しては残りは選択科目から、後者に関しては「ECED 590 Graduating Project (e-portfolio, optional)」3単位分を加え、残りは選択科目から、それぞれ修得することになる<sup>66</sup>。オンライン M.Ed.も修了要件単位数は30単位であるが、オプションとしては27単位分のコースワークと3単位分の修了プロジェクトのみが示されている。コースワークとしては、「EDUC 500 Research Methods in Education」, 「ECED 508 Review of Research in Early Childhood Education」, 「ECED 530 Early Childhood Education Development, Intervention, and Inclusion in Early Childhood Education」, 「ECED 585 Advanced Seminar on Research in Early Childhood Education: Sociocultural Perspectives on Early Childhood Education」, 「LLED 556 Theory and Research in Early Literacy」, 「ECED 531 Supporting Young Children's Social Emotional Development in Early Childhood Education」, 「ECED 585 Advanced Seminar on Research in Early Childhood Education: Leadership and Policy in Early Childhood Education」の7コースに「ECED 590 Graduating Project」を加え、さらに選択科目を2つ修得することが求められる<sup>67</sup>。

## 5. 考察と結論

以上、UBCバンクーバー・キャンパスの教育系大学院学位プログラムについて見てきた。本節では本プロジェクトにおける他大学との比較の観点から、いくつかの特徴を提示することとする。

まず第一に、他大学とは異なる点であるが、専攻別プログラムと研究科横断プログラムに分けられている点である。このうち専攻別プログラムは他大学のプログラムと並列されるものと思われるが、特徴的なのは、先住民教育プログラムと幼児教育プログラムを「研究科横断」プログラムとしてその「学際性」を強調している点である。先住民教育に関しては、これまで対象としてきた諸大学における M.Ed.

<sup>63</sup> <https://earlychildhood.educ.ubc.ca/> (2023年6月2日採取)。

<sup>64</sup> <https://earlychildhood.educ.ubc.ca/programs/graduate/ma/#Courses-1> (2023年6月2日採取)。

<sup>65</sup> <https://earlychildhood.educ.ubc.ca/programs/graduate/med/> (2023年6月2日採取)。

<sup>66</sup> <https://earlychildhood.educ.ubc.ca/programs/graduate/med/> (2023年6月2日採取)。

<sup>67</sup> [https://pdce.educ.ubc.ca/med-ece/#tab\\_Schedule-0](https://pdce.educ.ubc.ca/med-ece/#tab_Schedule-0) (2023年6月2日採取)。

及び Ed.D.プログラム, 特にカナダ全体として見れば西方に位置するアルバータ州のアルバータ大学教育系大学院のように「教育政策学専攻」の M.Ed.プログラムの一領域として「先住民教育領域」を設置していたり (平田, 2023a), カルガリー大学の「M.Ed.学際領域」のように 22 あるトピックの 1 つとして「先住民教育」を設定していたりする例はある (平田, 2024a)。<sup>68</sup>しかし, 学位プログラムの名称に「M.Ed. in Indigenous Education」と「先住民教育」という文言を使用しているのは UBC のみである。上述の通り, 当該プログラムでは「先住民」という視点を核として, コースワークの中に先住民の「口頭伝承 (Storytelling)」といった伝統や, クリティカル・セオリーが対象とし得る「先住民」といった側面を対象とする授業を設置しつつ, 選択科目として「言語&リテラシー教育 (LLED)」専攻の「LLED 565P Indigenous Language and Culture Education: Global Perspectives」<sup>69</sup>や, 「教育学 (EDST)」専攻の「EDST 565 Engaging Indigenous Intergenerational Wholistic & Land-Based Approaches to Teaching and Learning」<sup>70</sup>といった同研究科内他専攻の授業を受講しながら, 修了を目指すことができる。幼児教育 (ECED) 専攻に関しては, 「ECED 承認済み選択科目 (ECED Pre-Approved Graduate Electives)」というリストがあり, 修了に必要な選択科目として履修可能なコースがリストアップされている。それによると, 「カリキュラム&ペダゴジー (EDCP)」専攻から 13 コース, 「教育心理学・カウンセリング心理学・特別支援教育 (ECPS)」専攻から 10 コース, EDST 専攻から 5 コース, LLED 専攻から 9 コース, 本稿の対象外としている運動学専攻から 1 コースが履修可能とされている。また, 他研究科開講科目についても, 例えば社会学分野 (Sociology (SOCI)) の授業 (「SOCI 513 Theories About the Family」) や先住民学 (First Nations Studies (FNIS)) の授業 (「FNIS 501 Special Topics」, 「FNIS 560 Applied Learning: Collaborative Place-Based Research」) 等を履修することもできる<sup>71</sup>。つまり, これら専攻ではその他の専攻以上に「学際性」が重視されているということであり, それゆえに「研究科横断プログラム」として分類されている, ということであろう。

第二に, これは他大学の M.Ed.や Ed.D.にも共通して言えることであるが, 調査方法に関する授業が必ずと言っていいほど必修科目とされている点である。特に ECEP 専攻では, 各領域や分野への入学前提条件として一定程度の調査方法論の授業修得が求められている。本プロジェクトにおける他の論考で幾度となく述べてきたことが, 研究者養成プログラムではない, 実践家向けプログラムであるとしても, データを読み解いたり, 自らデータを収集し分析する能力 (リサーチ・リテラシー) の養成は不可欠であるということであろう。

第三に, UBC 教育系大学院プログラムでは, 専攻別プログラムが 4 専攻・27 領域あり, その中で研究者向け学位プログラムとして M.A.プログラムが 18 と Ph.D.プログラムが 9 (すべてリサーチベース), 実践家向け学位プログラムとして M.Ed.プログラムが 25 と Ed.D.プログラムが 1 (すべてコースベース) あるということ, 研究科横断プログラムには 3 専攻あり, M.A.が 1 プログラム (リサーチベース), M.Ed. (コースベース) が 2 プログラムあるということ, つまり専攻別にプログラムが分類されているのみならず, 専攻内の領域ごとにも学位プログラムが設定されており, それぞれにおいて修めなくてはならないコースワークが異なっている, ということである。つまり, プログラムが極めて細分化されていると

<sup>68</sup> アルバータ大学には「先住民学部 (Faculty of Native Studies)」が設置されており, 大学院学位としては「Master of Arts in Native Studies」と「PhD in Indigenous Studies」があるが, 双方とも教育系の学位ではない。<https://www.ualberta.ca/native-studies/programs/graduate-programs/index.html> (2023 年 6 月 5 日採取)。

<sup>69</sup> <https://lled.educ.ubc.ca/lled-565p-indigenous-language-and-culture-education-global-perspectives/> (2023 年 6 月 4 日採取)。

<sup>70</sup> <https://edst.educ.ubc.ca/edst-565-engaging-indigenous-intergenerational-wholistic-land-based-approaches-to-teaching-and-learning/> (2023 年 6 月 4 日採取)。

<sup>71</sup> [https://earlychildhood-educ.sites.olt.ubc.ca/files/2021/09/ECED\\_Pre-Approved\\_Graduate\\_Electives\\_2021\\_09\\_08.pdf](https://earlychildhood-educ.sites.olt.ubc.ca/files/2021/09/ECED_Pre-Approved_Graduate_Electives_2021_09_08.pdf) (2023 年 6 月 4 日採取)。

いうことであり、それは全体として見たとき、極めて多様なプログラムを提供しているということになる。この点も、本プロジェクトで検討対象としてきた諸大学と同様の特色であるが、その中でも UBC 教育系大学院が学生に提供し得るプログラムは、より多様な方に位置付けられるであろう。

なお、本プロジェクトの分析対象は M.Ed.及び Ed.D.プログラムであるが、学位プログラム全体が広範にわたり、専攻が多様に分類されている場合、詳細に関しては特に筆者の専攻分野に近隣する専攻に絞って検討することとしてきた。UBC 研究もそれに倣い、この後に執筆する論考では特に専攻別プログラム中の教育学 (EDST) 領域における学位プログラムについて、詳細に見ていくこととする。

## 【参考文献】

- ・ Canadian Encyclopedia (2015). *University of British Columbia*. Retrieved April 17, 2023, from the World Wide Web: <https://www.thecanadianencyclopedia.ca/en/article/university-of-british-columbia>.
- ・ 平田淳 (2019a) 「カナダ・ブロック大学大学院における M.Ed.プログラムの制度設計と諸特徴」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第3巻, 46-68頁。
- ・ 平田淳 (2019b) 「カナダ・ブロック大学大学院における M.Ed.プログラムの実態の諸側面—担当教員の認識に関する質的分析—」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第3巻, 69-91頁。
- ・ 平田淳 (2020a) 「トロント大学オンタリオ教育研究所 (Ontario Institute for Studies in Education of the University of Toronto: OISE/UT) における研究科と学位プログラムの制度設計」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第4巻, 110-127頁。
- ・ 平田淳 (2020b) 「トロント大学オンタリオ教育研究所における教育実践家向け学位プログラム (M.Ed.・Ed.D.) 及び研究者向け学位プログラム (M.A.・Ph.D.) の類似点と相違点—『リーダーシップ・高等・成人教育』研究科『教育リーダーシップと政策』プログラムを題材として—」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第4巻, 128-151頁。
- ・ 平田淳 (2020c) 『カナダの「開かれた」学校づくりと教育行政』東信堂。
- ・ 平田淳 (2021a) 「カナダの大学院における M.Ed.及び Ed.D.プログラムの設置状況」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第5巻, 25-42頁。
- ・ 平田淳 (2021b) 「カナダ・ウェスタン大学 (Western University) 大学院における M.P.Ed. (Master of Professional Education) 及び Ed.D. (Doctor of Education) プログラムの比較分析」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第5巻, 43-64頁。
- ・ 平田淳 (2021c) 「カナダ・ウェスタン大学 (Western University) 教育系大学院における教育実践家向け学位プログラムと研究者向け学位プログラムの比較分析—修士課程及び博士課程双方を対象として—」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第5巻, 65-80頁。
- ・ 平田淳 (2022) 「カナダ・ウェスタン大学 Ed.D.プログラムにおける最終プロジェクト『組織改善計画 (Organizational Improvement Plan: OIP)』の意義と内容」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第6巻, 2-23頁。
- ・ 平田淳 (2023a) 「カナダ・アルバータ大学教育系大学院学位プログラムの諸特徴」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第7巻, 53-66頁。
- ・ 平田淳 (2023b) 「カナダ・アルバータ大学 M.Ed.及び Ed.D.プログラムに関する一考察」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第7巻, 67-89頁。
- ・ 平田淳 (2023c) 「カナダ・カルガリー大学教育系大学院学位プログラムの諸特徴」『佐賀大学大学院

学校教育学研究科紀要』第7巻, 90–110頁。

- ・ 平田淳 (2024a) 「カルガリー大学 M.Ed.学際領域プログラムのカリキュラム・デザイン」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第8巻, 2–25頁。
- ・ 平田淳 (2024b) 「カルガリー大学 M.Ed.スペシャリスト・プログラムに関する一考察」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第8巻, 26–47頁。
- ・ 平田淳 (2024c) 「カルガリー大学 Ed.D.のプログラム・デザインと M.Ed.・Ed.D.・M.A.・Ph.D.の比較考察」『佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要』第8巻, 48–62頁。
- ・ 小林順子 (2003) 「変容するケベック州の学校」小林順子他編『21世紀にはばたくカナダの教育』カナダの教育2, 東信堂, 95–123頁。
- ・ Logan, H. (1958). *Tuum est: A history of the University of British Columbia*. Vancouver: BC, University of British Columbia, Retrieved April 17, 2023, from the World Wide Web: [https://www.library.ubc.ca/archives/tuum\\_est\\_contents.html](https://www.library.ubc.ca/archives/tuum_est_contents.html).
- ・ MacKenzie, N.A.M. (n. d.). *The President's report 1957-58*. University of British Columbia, Retrieved April 17, 2023, from the World Wide Web: <https://www.library.ubc.ca/archives/pdfs/presidents/1958.pdf>.
- ・ UBC Archives (2022). *A brief history of UBC*. Retrieved April 17, 2023, from the World Wide Web: <https://archives.library.ubc.ca/general-history/a-brief-history-of-ubc/>.

#### 【附記】

本稿は、独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（C）（一般））「JSPS 科研費 JP18K02283」の研究成果の一部である。

(2024年1月31日 受理)